

③ 聴覚、音声・言語、そして機能障がい者

自分の備え

ひごろの備え

- 補聴器等の補助用具はいつも手の届くところに置きましょう。
- 補助用具及び専用電池(バッテリー)は、予備を用意しておきましょう。
- 正確な情報を収集するために、携帯電話や文字情報取得端末機、筆談に必要なメモ、携帯用ホワイトボード、筆記用具を常に用意しておきましょう。
- 情報伝達のために緊急会話カードを自分で作って身につけておきましょう。

緊急会話カードの例

「私の名前は〇〇です。私の代わりに□□に電話をかけていただけますか。」
「今、何が起きているのか、メモに書いて教えてください。」など、
災害時に必要と思われる文面のカードを作っておきましょう。

- 夜間の睡眠中の情報伝達をどうするか家族や隣近所の人達と決めておきましょう。
- 特に夜間は停電になることを想定し、懐中電灯や蛍光式の筆談器を備えておきましょう。

安全な避難

- 周りの人に自分のことを筆談等で伝え、正しい情報を教えてもらうようにしましょう。

避難を支援する人

避難行動

- 聴覚障がいのある人は、音声の情報が入らないため、的確な判断や避難行動をとることが困難です。手話や筆談、口話、緊急会話カードにより、情報を伝え、誘導しましょう。
- 聴覚障がいのある人は、背後の様子を捉えにくいので、相手の視野に入るか、軽く触れて合図をしましょう。正面から口をやや大きく動かし、ゆっくり話せば理解できる人もいます。
- 同時に複数の人が話さないようにしましょう。

避難所での対応

- トイレ、水、電気等生活に関わる重要な情報は、大きく、分かりやすい内容で壁に張り出したり、ホワイトボードなどを使って掲示しましょう。
- 避難者の中に、手話通訳者、要約筆記者がいないか呼びかけをし、支援の手助けをお願いしましょう。
- そしゃく機能障がいのある人は、食事の配慮が必要な人もいるので、本人に確認しましょう。

聴覚障がい者の中には、視覚等にも障がいがある人(盲ろう者)がいますので、支援にあたっては十分な配慮が必要です。



聴覚障がい者とのコミュニケーション

- 手話** … 手の動きだけでなく、体や目、口の動き、顔の表情を使って話をしましょう。
- 筆談** … 長い文章は避け、箇条書きで必要なことのみを書くようにしましょう。
- 口話** … 相手の唇の形や動きを読み取って相手の言葉を理解する方法です。ゆっくりはっきりと口を動かして話しましょう。

